

翼和希／咲くやこの花インタビューvol.46

翼和希(つばさ・かずき)【令和6年度 演劇・舞踊部門〔歌劇〕】



**舞台上はダンディー、素顔はフレンドリー
OSK 日本歌劇団男役トップスター・翼和希**

2013年4月にOSK日本歌劇団に入団し、日生劇場「レビュー春のおどり」で初舞台を踏んだ翼和希さん。劇団創立100周年の2022年には、福井県越前市での1カ月公演「たけふレビュー」で大劇場公演の初主演を果たしました。2023年10月に開始した連続テレビ小説「ブギウギ」に主人公の先輩・橘アオイ役で出演、その熱演が評判を呼びました。そして2024年9月、トップスターに就任。同年10月の岩国公演を皮切りに、2025年は1月のシンガポール公演、3月の名古屋・香川公演、4月の京都南座公演など国内外で就任記念公演を行い、6月に大阪松竹座、8月には新橋演舞場でお披露目公演をする予定です。

受賞理由は以下の通りです。「OSK 日本歌劇団の男役スターとして卓越した歌唱力とキレのあるダンス、親しみやすい人柄で幅広い世代から人気を集める。劇団の知名度を上げた NHK 連続テレビ小説「ブギウギ」では、主要キャストの一人として存在感を発揮し、精力的に舞台に立ち続けることでドラマ視聴者が劇場に足を運ぶきっかけを作った。今後の歌劇文化を牽引し、大阪文化の発展に貢献することが期待される」。

取材・文／岩本和子

日本の文化である歌劇をもっと知ってもらいたい

まずは受賞のご感想を教えてください。

素直に嬉しかったのと、改めて「咲くやこの花賞」を調べました。関西の劇団に所属していて、私も大阪出身やし、そんな中でこのような賞をいただけるのは本当にありがたいことだなと思いました。

令和元年には先輩の桐生麻耶(きりゅうあさや)さんも受賞されました。OSK から 2 人目という快挙ですね。

恐れ入ります。



今は特別専科でいらっしゃる桐生さんは、翼さんにとってどんな存在ですか？

絶対的な存在です。私が迷った時は相談できて、そっと背中を押してくださいます。ドアを叩けば絶対開いてくださる方なので、全力で甘えに行っています(笑)。

では、受賞理由の一つである朝ドラの「ブギウギ」ですが、橘アオイ役を演じたことで劇団への思いに変化などはありましたか？

劇団の歴史はもちろん知ってはいたものの、役を通じて追体験していくことで、その当事者になった感覚でした。桃色争議の時も「こんな辛かったんやな」って。でも、戦うというところが OSKらしいなと思いましたし、それが 103 年の歴史の中で受け継がれているものなのかなと思いました。「絶対途絶えさせない」という先輩たちの生命力や、どれだけ OSK のことを大切にしてくださっていたか、そ

の思いも実感しました。撮影中、OSK を継続していかなきゃいけないという気持ちが大きくなって、あとから作品として見たときに、その気持ちは確信に変わりました。それから、「継続するためには何をしていかなきゃいけないんだろう」という考えになりました。

今の心境を教えてください。

大阪生まれの劇団として、日本の文化の歌劇をもっといろんな人に知っていただきたいし、OSK はこういう劇団なんだということを知っていただきたいと思います。私は 100 年を超えたら、それはもう伝統芸能じゃないかなと思っています。特に OSK は松竹様から生まれた劇団で、松竹様には男性が女性を演じる歌舞伎という世界があって、女性が男性を演じる歌劇という世界があります。この 2 つの世界が共存しているのは松竹様ならではの気がしますし、そこに一歩踏み込んでもらえる玄関でありたいなと思っています。

トップスターに就任、新たなファンを増やすために



2024 年 9 月 2 日にはトップスター就任が発表され、10 月の岩国公演からトップスターとしての公演が始まりました。11 月 21 日には大阪での『レビュー Road to 2025!!』で関西のお客様の前にトップスターとして初めて舞台に立たれましたが、その時のご感想を教えてください。

就任後初の大阪公演だったので、個人的には地元で公演ができるということがめちゃくちゃ嬉しくて、お客様の拍手やご声援が本当に温かったです。劇団がこれから歩いていく道を明るく照らしてくださっているような感じがして、そこに歩みを進める勇気をもらえたような気がしました。勇気をもらえたからこそ、粉骨砕身の気持ちで OSK のために頑張ろうと思いました。

オープニングで「千年桜のように」という宣言もありましたね。

あの口上は緊張しました(笑)。緊張しすぎて開演 15 分前からずっと幕裏にて、ぶつぶつ呟いて練習していました。決意表明は絶対に失敗したくなかったし、お客様への約束やと思ったし、ここで噛むのはちゃう！と思って、一言ずつ丁寧に、お客様お一人お一人に決意をお伝えしようと思って。そう思えば思うほど緊張してしまいました。



トップスターに就任されたことで、翼さんの中で何か心境の変化はありましたか？

舞台に対しては変わりはないのですが、取材などいろいろお話を聞いていただける機会が増えましたので、その時に自分が入団から 11 年間で感じてきたことや、学んできたことを OSK の魅力としてどんどん発信して、新たなお客様が OSK の扉を叩いてくださったらいいなと、そういう気合は入りました。

以前、翼さんが思うトップスター像をお尋ねした時、「孤独」とおっしゃっていましたが、今、それは実感されていますか？

マイナスな意味ではなく、確かに孤独は感じています。それは物理的にやるが増えて、自然と一人の時間が増えたという。歴代の先輩方もそうされて来られたんやなと思うと、まだまだ頑張らなあかと日々反省です。

ターニングポイントを経て芽生えた「やっちゃえ！精神」

2025 年でデビューから 12 年です。この間、翼さんという舞台人はどのように変化されたのでしょうか。

最初のターニングポイントは、入団 3 年目です。大阪松竹座での高世麻央(たかせまお)さんのトップお披露目公演で、演出の荻田浩一先生に歌のソロをいただいた時でした。3 年目の若手が第二部のフィナーレで階段に立ってソロを歌うなんてありえなかったのですが…。それからソロをいただけるようになって、お歌も好きになりました。そんな中で、5～6 年目は大阪松竹座の『春のおどり』に出られなくて、小劇場の方で武者修行していました。その経験を経て桐生さんのトップお披露目公演で初めてラインダンスのボーイをさせていただきました。その稽古の時に桐生さんから「すごくいいから、このままもっとやんな」と言っていたのが、さらに大きいターニングポイントだったと思います。



桐生さんのその一言は、勇気が湧きますね。

芸事は正解も天井もないので、どれだけ稽古したかて不安なものは不安やし、しかも一人となるとさらに不安だったのですが、お稽古場で自分なりに精一杯やった時に、そう桐生さんからお言葉をいただいて、「じゃあ、これをベースにもっとやってみよう」と思えるようになりました。あのお言葉にすごく救われたし、今となっては自分の礎になっています。迷いながらやるのはお客様に失礼だし、迷わずにこれだと確信を持ってやることでその人の輪郭がはっきり見えてくる。それが個性につながるんじゃないかなと思います。そんな大きなターニングポイントがあって、いろんなことに挑戦する恐怖心がなくなったというか、「やっちゃえ！精神」が芽生えました。それからは舞台作りがめっちゃ苦しいけど、めっちゃ楽しくなりました。

今、「やっちゃえ！精神」というお言葉も出ましたが、OSK は何でもやらせてもらえる器がある感じがすね。

そうかもしれないです。私は歌劇しか舞台は知りませんが、芸事には可能性が無限大にあって、歌劇に

も超えてはいけない一線はあるとは思いますが、いろんな挑戦ができると思っています。しかもそれは OSK だからできるのではないかなと思うところもあって。たとえば「買い物ブギ」で前掛けして、豆絞りでねじり鉢巻きしてみたいな。そういう親しみやすさがありつつも、燕尾服できりっと締めるというか。幅広く挑戦できるのもいいところかなと思います。



どこまでできるか模索することで、劇団がもっと豊かになっていきますね。

おもちゃ箱みたいな劇団だったら楽しいですよ。次は何が出てくるんやろう!?みたいな。おもちゃ箱を自然と覗き込みたくなるような劇団だったら、お客様も楽しいと思います。「この前観た時と全然違ったよね」と思われるような、色をどんどん変えていけるのも OSK の魅力かなと思います。歌劇はノンバーバルで夢の世界に誘える存在だと思いますが、そこにプラスして OSK はスポーツ観戦のような熱いエネルギーが持ち味の生命力あふれる劇団だと思います。なので、ぜひ一度、気軽に観に来てほしいです。

和もの、洋ものと 2 つのレビューで構成された舞台もなかなかないのでは。

毎年、和もののレビューショーをやっているのは OSK だけです。お芝居ももちろん大好きですが、レビューを主にやってきた劇団で、日舞と洋舞を一度に見られるのは OSK だけと声を大にしたいです。日舞で 2 ステップとかサンバステップもしますから！ OSK の日舞は結構リズムカルな曲で踊りますし、日舞の群舞も楽しいと思います。立ち回りなど海外の方にも喜んでもらえる演出も多いです。SAMURAI も出るし、OIRAN もいますよ！と呼び込みたいです(笑)。

海外公演から幕を開けた 2025 年はどんな年に？

2025 年は 1 月のシンガポール公演から始まり、3 月は「OSK レビュー in 名古屋～レゼル Les Ailes～」、4 月は京都南座で翼和希トップスター就任記念「レビュー in Kyoto」、6 月は大阪松竹座で翼和希トップスターお披露目公演「レビュー 春のおどり」、8 月は東京の新橋演舞場で翼和希トップスターお披露目公演「レビュー 夏のおどり」と、大きな会場だけでも続々と公演が決まっていますね。

ありがたいことです。今までこんなに先まで予定が出ることがありませんでした。「ブギウギ」の放送が始まって、反響が出て、いろんなところからお声がけいただいて、こんな先まで公演が決まって…。めちゃくちゃありがたいし、それこそこの状況を継続させていかなきゃいけないし、「OSK のことを忘れんといて」って思います。

6 月の大阪松竹座での「春のおどり」も、第一部と第二部とではまたカラーが変わりそうですね。

はい、第一部は花柳寿楽先生が作・演出のかっこいい日舞のショーです。寿楽先生は今、大河ドラマ「べらぼう」の所作指導でも入っていらっしゃいますよね。第二部の洋物レビューの作・演出は中村一徳先生です。一徳先生が OSK の演出をするのは 8 年ぶりだそうです。私はその年に出ていなかったの、今回初めてご一緒させていただけるので、めっちゃ嬉しくて、めっちゃ楽しみです。めっちゃ踊ると思います！

大阪松竹座は OSK 日本歌劇団が生まれた場所

では最後に、翼さんが大阪に「咲くやこの花賞」を贈るとしたら、何に贈られますか？

やっぱり大阪松竹座ですよ。私たちの生みの親ですから、もう迷いなく一択ですね。大阪松竹座には OSK の先輩方の汗と血と涙が染み込んでいるので、特別な場所です。その先輩方の魂とか、目に見えないものを勝手に受け止めて、舞台に立っています。やっぱり OSK が生まれた場所というのもあって、劇場のどこにいても温かい気持ちになります。客席で舞台稽古を見ている時もそうだし、楽屋の畳もすごく好きですね。劇場に入るたびに「ただいま」って思いますし、もうホームです。

そんな場所があるのは素敵なことですね。

名だたる先輩方が舞台に立たれて、楽屋も使われてきただろうから、汚れ一つ残さず、来た時よりもきれいにしてお帰ろうと思います。歌舞伎の方や新喜劇の方も使われている中で、OSK の先輩方も使われてきた劇場だから、常に神聖な場所であるべきだと思っています。

大阪松竹座の周辺もおいしいお店がいっぱいありますね。

はい！「道頓堀今井」のおうどんもおいしいし、「はり重」もおいしい。「かに道楽」もあるし、「がんこ寿司」も近くにあるので、楽しいですね。大阪松竹座の周りにご飯屋さんがたくさんあるので、ご飯を食べてから劇場に観に行くこともできるし、見終わってからご飯を食べることもできるという、大阪松竹座のある道頓堀は、観劇プラスαが楽しめる街です！



【略歴】 翼和希(つばさ かずき)

2013 年 4 月、OSK 日本歌劇団入団、日生劇場「レビュー春のおどり」で初舞台を踏む。劇団創立 100 周年の 22 年に、福井県越前市での 1 カ月公演「たけふレビュー」で大劇場公演初主演を果たす。23 年 10 月開始の連続テレビ小説「ブギウギ」に主人公の先輩役で出演し、その熱演が評判を呼んだ。24 年 9 月、トップスターに就任。10 月の岩国公演を皮切りに、11 月の大阪公演「レビューRoad to 2025!!」、25 年 1 月のシンガポール公演、3 月の名古屋・香川公演、4 月の京都南座公演など国内外で就任記念公演を行い、6 月に大阪松竹座、8 月に新橋演舞場でお披露目公演を予定する。
23 年 8 月より、出身地枚方市の PR 大使を務める。

【OSK 日本歌劇団 ホームページ】

<https://www.osk-revue.com/>